

令和7年度小平市立小平第四小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全国平均を3.2%上回る平均正答率であった。「書くこと」に係る項目については、全国平均よりも5%程高く、目的に応じて必要な情報を見付けて書くことができた。「話すこと・聞くこと」の項目では、内容を分類したり関係付けたりして内容を捉えることができた。

課題

同音異義語や時間の経過による言葉の変化を捉える問題では、全国平均を約7%下回った。最後の「書く」問題は無回答だった児童が四分の一のことから、時間が足りずに回答できなかったと考えられる。自分の考えを根拠をもとにまとめることに一部課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

- 日常の国語科学習や各教科の資料活用場面等において、目的を意識して必要な情報を見付けて説明することを心がけるようにし、日常生活に役立てられるようにする。
- 授業や家庭学習で習った漢字を活用して、書く習慣を継続する。
- 文の構成を意識して要約したり、事実と自分の意見を区別して書かせたりする指導を行う。
- 全ての教科において主張を意識しながら、文を読むように習慣付けていく。

【算数】

状況の分析

全国平均をやや上回る平均正答率であった。特に4問あった「数と計算」の「思考・判断・表現」に係る出題においては正答率が高く、全国平均をすべて上回っていた。

課題

「図形」に係る出題について、全国平均に比べ2ポイント低く、図形の性質や意味の理解が不十分な児童が多く見られた。他の領域でも「知識・技能」に係る出題で正答率が低く、基本的な知識・技能の定着に課題が見られた。

学校で取り組む具体的な改善策

- 自分の考えを図や式などを使って、ノートに思考過程を整理して書き、説明する学習を引き続き行い、「思考・判断・表現」の更なる向上を目指す。
- 朝学習や補習の時間に東京ベーシックドリルを活用した復習を行い、「知識・技能」の定着を図る。
- 習熟度に応じて授業の初めに既習事項を復習することで基礎基本の定着を図る。
- 図や数直線等を活用して説明する等、主体的に学習に取り組む授業づくりを行う。

【理科】

状況の分析

課題

全国より約4%、東京都より1%上回る平均正答率であった。全ての領域、及び「知識・技能」「思考・判断・表現」観点で全国平均を上回っていた。一部の領域の知識面や記述式の問題形式に課題がみられたものの、全体的に知識が身に付き、表現することができていた。

身の回りの金属について、電気に通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識に課題があった。また、結果を基に結論を導いた理由や新たに問題を見いだし表現する力にも課題が見られた。また、問題が短答式や記述式になると無回答率も高くなり、最大11.5%無回答の問題もあった。

学校で取り組む具体的な改善策

- 既習事項を定期的に振り返ったり、器具や機器などの操作を十分に行ったりすることで、知識・技能を身に付けさせる。
- 自分の考えをもつために、十分な時間を確保したり、友達と交流する活動を取り入れる。
- 問題を的確に把握し、根拠のある予想や仮説を発想し、考察する習慣を付ける。
- 理科の見方（領域ごとの各視点）・考え方（「比較」・「関係付け」「条件制御」「多面的に考える」）を働かせられるように、指導者が学年や単元に合わせて意識的に指導する。

【質問紙】

状況の分析

課題

生活面では毎日朝食を食べたり、規則正しく寝起きしたり基本的な生活習慣はできているようである。学習面では5年生までにICTを活用した学びがしっかりできていると感じており、自分の考えを様々な方法で表現することへの自信も見られる。教科では算数に苦手意識をもっている児童が多く見られる。

自分にはよいところがあると思いますかという質問に対し、否定的な回答が18%あり、自己肯定感に課題が見られる。読書を好まない傾向もあり、授業時間以外に読書を全くしないという回答が30%だった。算数の学習が得意ですか、好きですかという質問に対する否定的な回答が共に35%で、算数への苦手意識も課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

- 様々な活動において教師が児童一人一人が頑張っていることを価値付け、児童の自己肯定感を高めていくようにする。
- 図書の時間以外にも朝学習や隙間時間での読書を励行するとともに読んだ本について記録をしたり、友達と交流し合ったりする機会を設けて読書への意欲を高める。
- 算数の学力調査でも見られたように「知識・技能」の定着に課題があるので、朝学習や補習の時間などを活用した復習を通して「知識・技能」の向上を図り、算数への苦手意識を克服していく。
- 引き続きICTの適切な活用を実施し、児童が考えたことを様々な方法で表現する機会を設け、ICTを活用する能力と思考力の更なる向上を図る。